
事業戦略説明会

情報通信事業

2018年5月31日

沖電気工業株式会社

常務執行役員 情報通信事業本部長

坪井 正志

事業の概要

137年の顧客基盤におけるインストールベースを基に、特長あるデバイス群、音響・光センサーを特長としたセンシング、NW技術、データ処理・運用技術・ノウハウで、社会インフラを支える様々なソリューション、プロダクト&サービスを提供

社会インフラを支える商品群

■ソリューション

- ・航空管制／ETC／VICS／消防／防災／防衛システム等
- ・省庁業務ソリューション
- ・営業店システム／VTM／通帳アプリサービス等
- ・鉄道窓口発券システム／空港自動チェックインシステム



■プラットフォーム(プロダクト、サービス)

- ・キャリアネットワーク／映像配信等
- ・PBX／ビジネスホン／コンタクトセンター
- ・サブギガ帯マルチホップ無線
- ・クラウドサービス／保守サービス／工事サービス



データ処理 ・運用

ソリューション&サービス、社会システムで培ったデータ処理、運用技術・ノウハウ

ネットワーク

通信システム、社会システムで培った有線・無線通信ネットワーク技術

センシング

社会システムで培った特長あるセンサー技術(音響センサー、光センサー等)ならびに信号処理技術

特長のある デバイス群



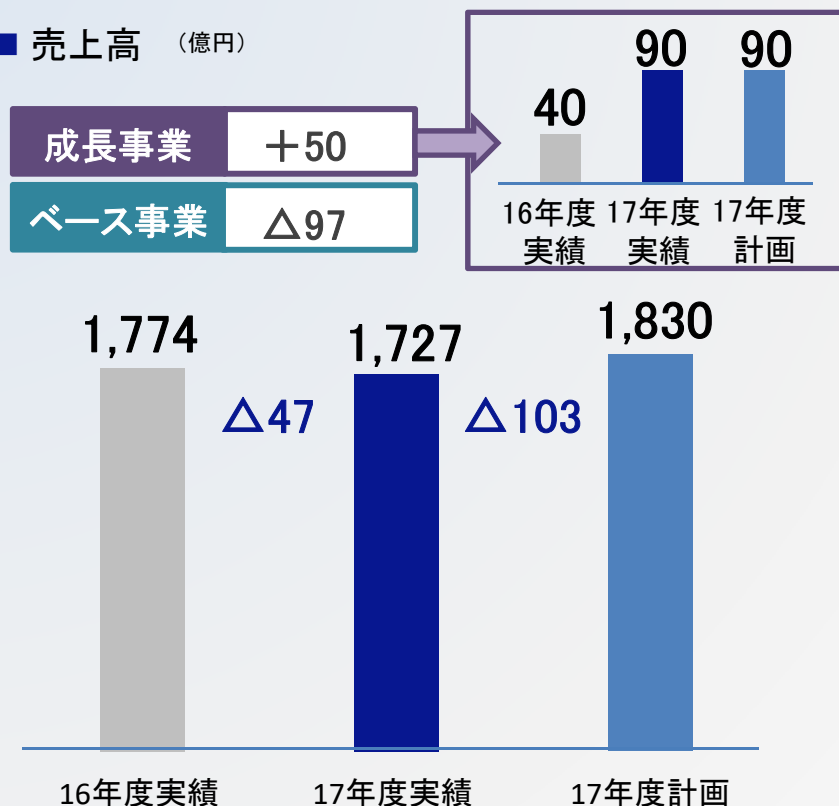
137年の顧客基盤
インストールベースを保有

2017年度の振り返り

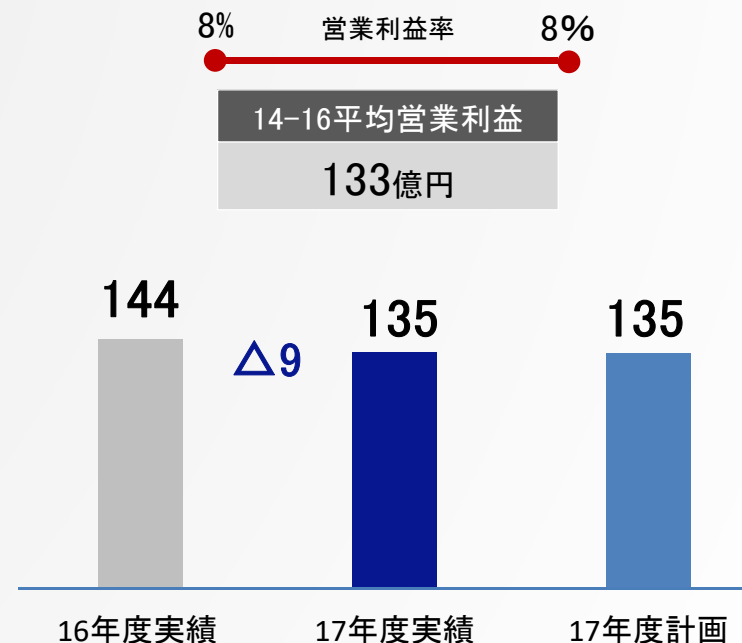
- 売上高は前年より微減も、安定収益を維持(計画通り)
- ベース事業が市場環境悪化、競争苦戦により想定以上に減少
 - ・市町村防災事業、NW事業 等
- 成長事業は積極発信の効果もあり、計画線上で、対16年度50億の売上増強

業績比較

■売上高 (億円)



■営業利益 (億円)



2017年度振り返り(施策の進捗)

事業戦略		
事業	中計での位置づけ	注力キーワード
情報通信	安定収益確保と新事業創出	次世代社会インフラ IoT
メカトロ	成長軌道への回帰	新興国 流通市場 戦略商品
プリンター	戦略転換での安定収益化	特定市場 LED 軽量経営
EMS	1000億事業への通過点	新市場領域 M&A

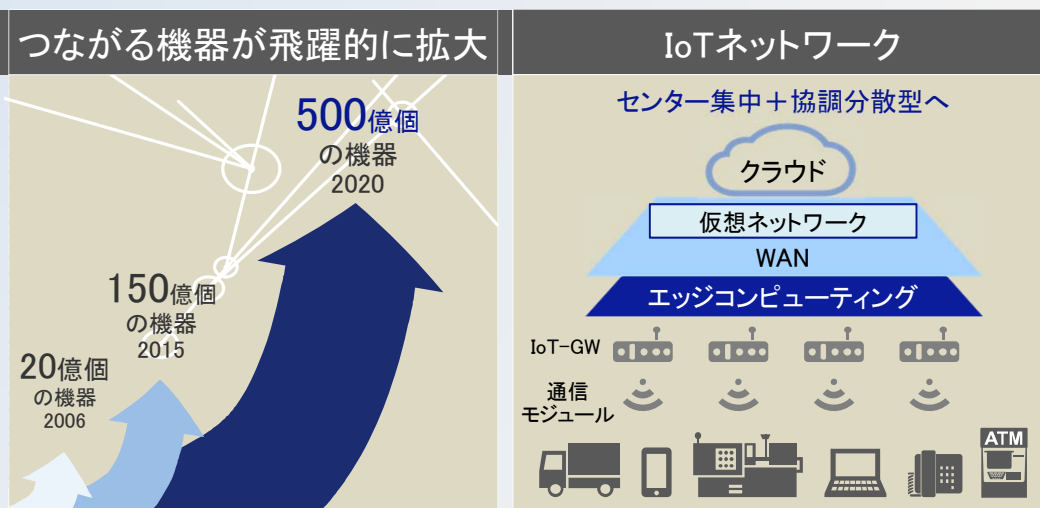
キーワード	施策説明
社会インフラ ×IoT	2019年度 160億増収目標(16年度対比)に対し、90億まで成長 ・現時点で49社と共創を実施中 ・IoTビジネスプラットフォームを強化する商品開発を加速 最重点である次世代交通分野において ・OKIのITSサービスLocoMobi2.0の販売を開始 ・ITSテストコースを本庄工場に開設 情報／通信／公共の融合を加速化し、社会インフラ×IoTへの取り組みを強化

マクロ環境

マクロ環境には変化なく、デジタル変革は想定以上に加速

マクロ 環境認識

- 国内ICT市場全体は2019年に向けて年率1.3%成長で堅調な予測
- 様々な社会課題が顕在化し、課題解決に向けてICT活用機会・投資が増加
- 国内IoT市場はCAGR19.5%、2020年に1兆円市場へ成長予測



デジタル変革が加速

国内ICT市場全体	年率1.3%成長※1
国内IoT市場	CAGR19.5%※2

デジタル変革 への投資

社会課題

労働力不足

自然災害/環境問題

老朽化問題

少子高齢化

働き方改革

膨大になるインフラ維持コスト/リソース不足

既存システムの
更新投資

2016

2020

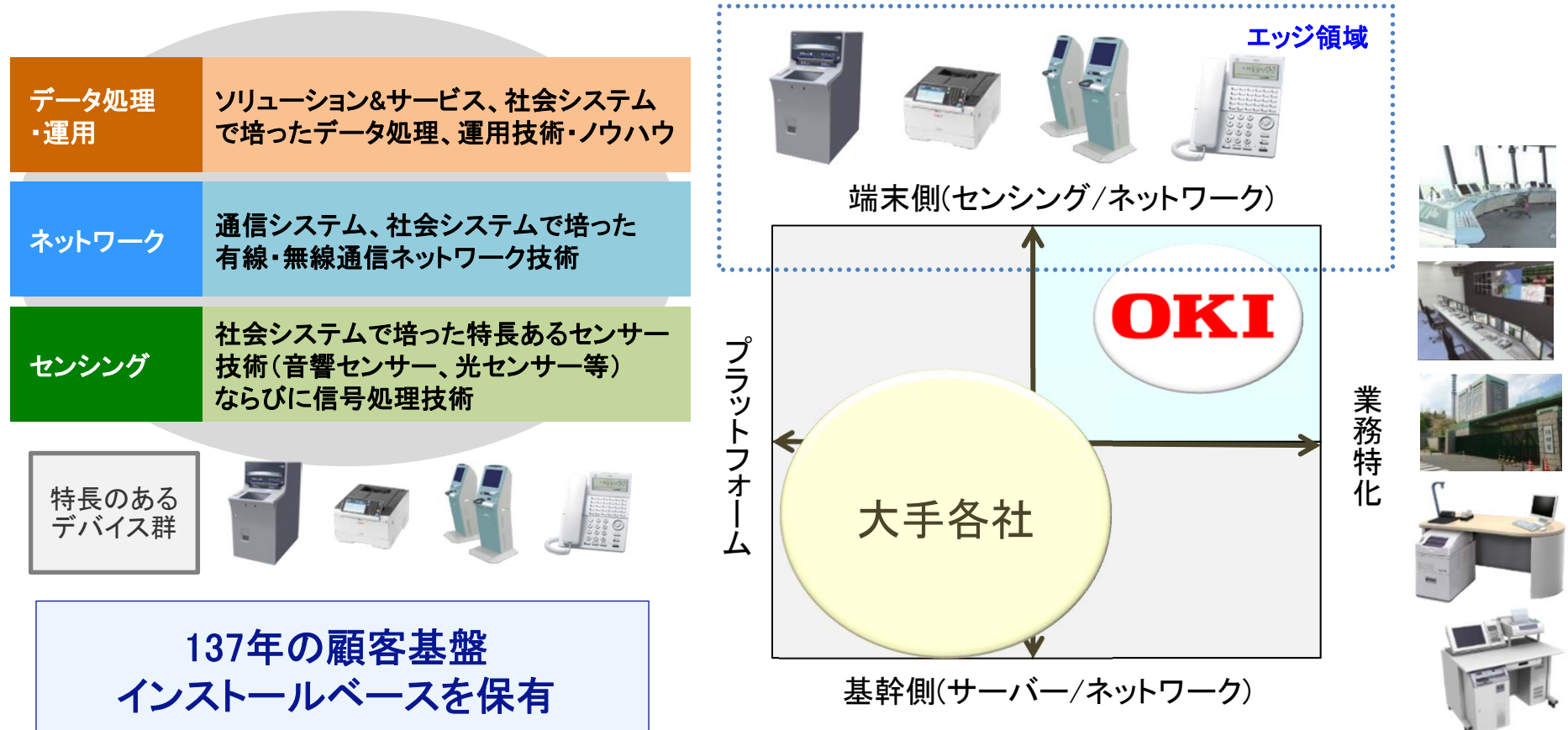
2025

(※1) IDC JAPAN予測

(※2) シードプランニング「2015年版M2M通信モジュール/サービスの市場展望」より

OKIのIoT戦略

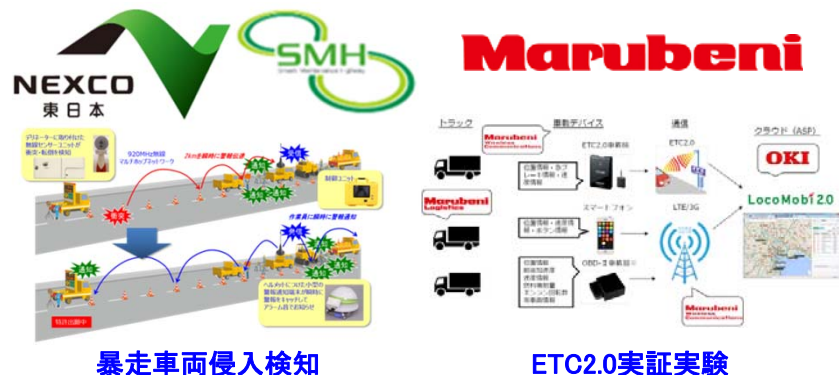
- OKIの強みは137年の顧客基盤におけるインストールベースと技術アセット、モノづくりの強み（特にセンシング & ネットワークと特長のあるプロダクト）
- デジタル変革ニーズに応えられるためのプロダクトからソリューションサービスまで一貫で提供可能であり、業務特化で強い顧客基盤を保有
- IoT市場攻略に向け、大手各社とも連携のしやすいポジショニング



共創取り組み状況

■現時点で49社と共創中

①交通



②建設／インフラ・防災



③医療



④金融・流通



⑤製造



商品開発進捗状況

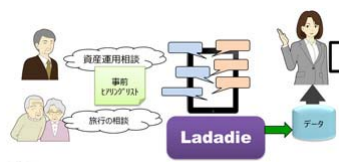
IoTビジネスプラットフォームを強化する商品開発を加速

IoTビジネスプラットフォーム

データ処理 ・運用



ITSサービス
LocoMobi2.0



AI対話エンジン
Ladadie



EXaaSマネージド
セキュリティサービス



統合運営管理ソリューション
Opt-AI

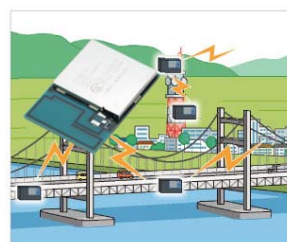


店舗業務改善支援ソリューション
VisIoT

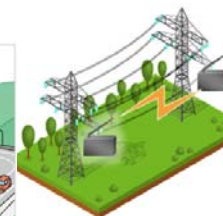
ネットワーク



映像IoTゲートウェイ
(AISION)

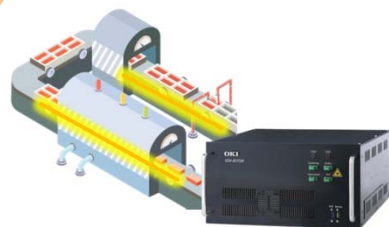


920MHz帯マルチホップ無線
省電力SmartHop



無線加速度センサーシステム

センシング ・デバイス



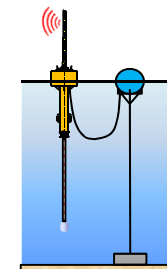
光ファイバーセンサー



AI アシスト端末



ネットワーク型
超音波水位計



沿岸監視ブイ



マルチビーム測深機
CARPHIN V

中期経営計画2019 ―事業戦略(1)―

- ベース領域は社会インフラ投資が堅調であり、安定収益を維持拡大
- デジタル変革(IoT)をチェンジドライバーとして積極投資により成長を目指す

数字は売上増分(16年対比)

成長事業

- デジタル変革(IoT)をチェンジドライバーとして成長を目指す
- お客様とのアプリケーション共創により、お客様の課題解決を図る
- 顕在化する社会課題解決に向けてIoTに積極投資



注力分野



+160億

ベース事業

- ソリューション
 - ・ 航空管制・ETC・VICS・消防・防災・防衛システム等
 - ・ 省庁業務ソリューション
 - ・ 営業店システム・VTM・通帳アプリサービス等
 - ・ 鉄道窓口発券システム・空港自動チェックインシステム
- プラットフォーム(プロダクト、サービス)
 - ・ キャリアネットワーク/映像配信等
 - ・ PBX/ビジネスホン/コンタクトセンター
 - ・ サブギガ帯マルチホップ無線
 - ・ クラウドサービス/保守サービス/工事サービス

社会インフラ投資全体は堅調で安定

- ・ 強い事業はM&Aを視野に活動
- ・ 効率化を進めて、成長事業へ積極投資



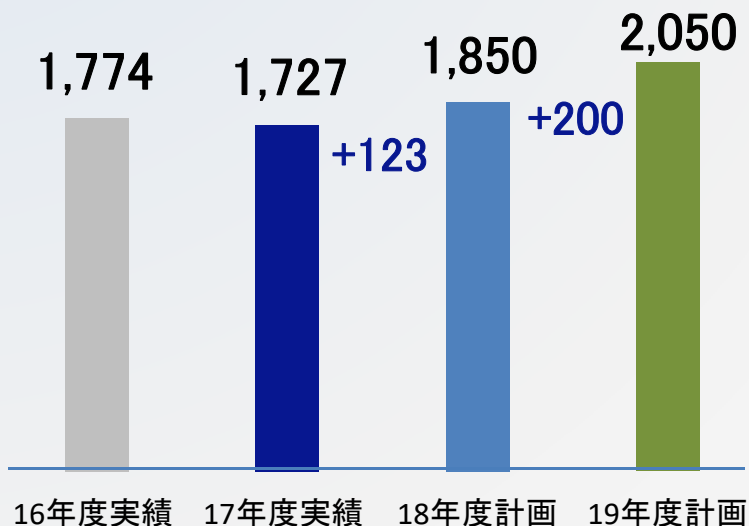
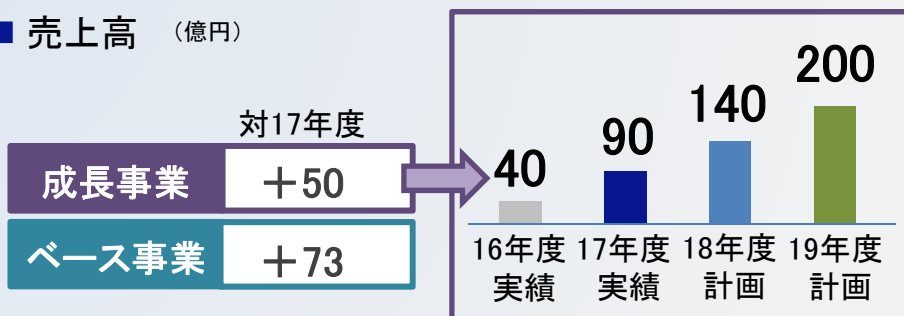
+120億

2018年度計画 ー売上高、営業利益ー

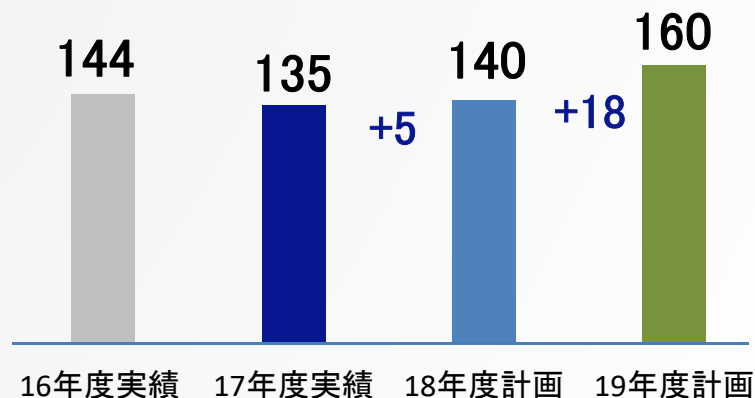
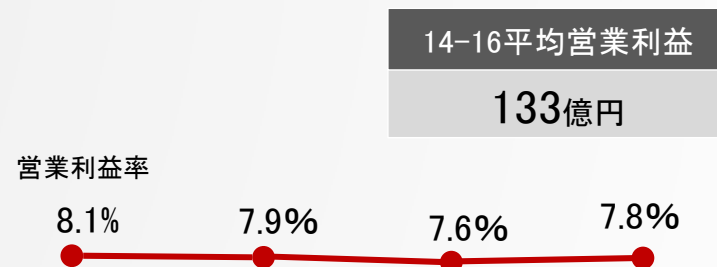
- ベース事業は、前年度から回復を図り、さらに一部官公庁向け事業が規模増
- 成長事業は19年度+160億(対16年度)に向け、さらに+50億を計画
成長分野へ100名規模を要員を内部シフト

業績比較

■ 売上高 (億円)



■ 営業利益 (億円)



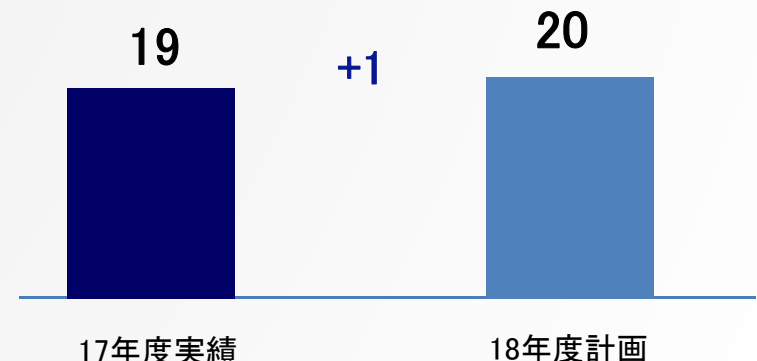
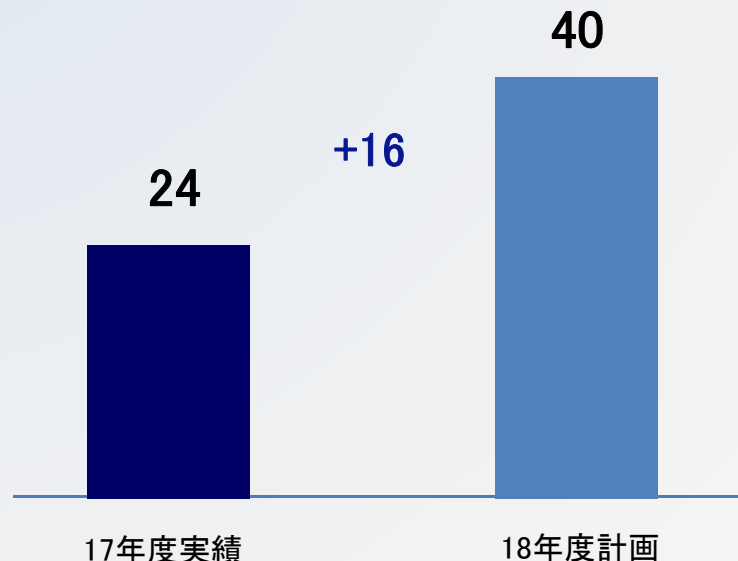
2018年度計画 ―投資―

- 2019年度の目標達成、2020年度以降のさらなる成長に向けて積極投資
- 研究開発費は交通分野、IoTプラットフォームに重点投資、さらなる成長分野への投資も加速
- 設備投資は新商品ならびに既存事業の大型案件の開発・生産設備を中心に投資
- ベース事業強化を中心に戦略投資を模索

前年比較

■ 研究開発費 (億円)

■ 設備投資 (億円)



中期経営計画2019 ―事業戦略(2)―

- 顕在化する社会課題の解決に向けたソリューション提供を目指す
- 業務特化／センシング＆ネットワークにポジショニングし、137年の顧客基盤におけるインストールベースと技術アセット、モノづくりの強みを活かす

社会課題

労働力不足



自然災害/環境問題



老朽化問題



少子高齢化



働き方改革



注力分野

最重点

交通



建設/インフラ、防災



医療



金融・流通



製造



将来に向けて

海洋・音響



技術アセット

IoTビジネスプラットフォーム

データ処理・運用

ネットワーク

センシング・デバイス

将来に向けて

5G

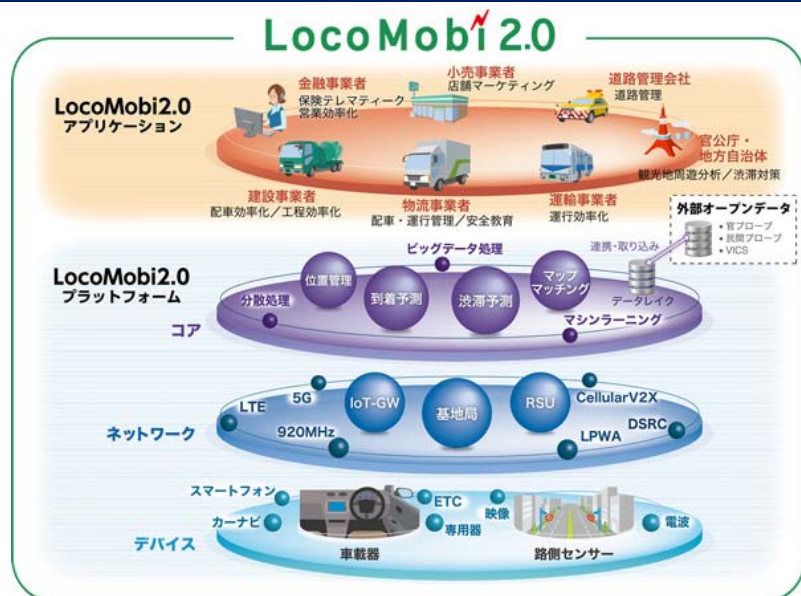


次世代交通向けソリューション

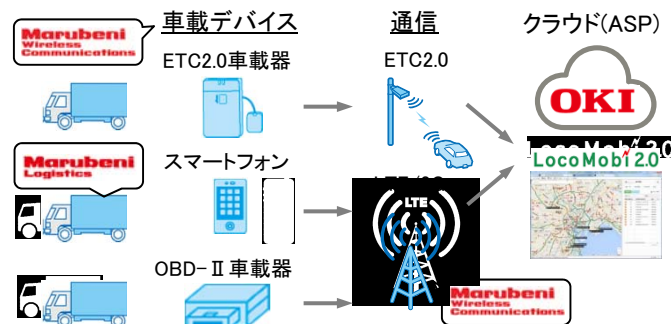
最重点

次世代交通

- OKIのITSサービス「LocoMobi2.0」を、2017年11月よりサービス販売開始
- ITSテストコースを本庄工場に開設
- 6社によるCellular-V2X実証実験を18年度に実施、インフラ協調ITSで市場優位性を築く



ETC2.0 物流実証実験

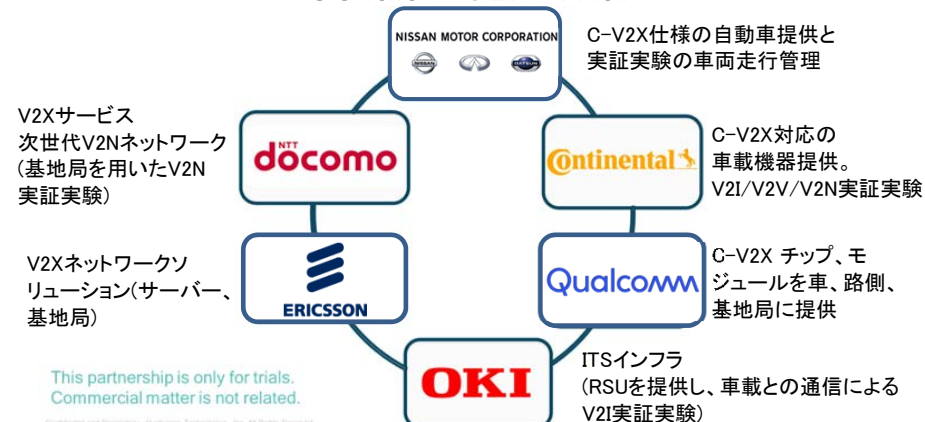


ITSテストコース開設



5G × 自動運転(5GAA)

Cellular-V2X Trial



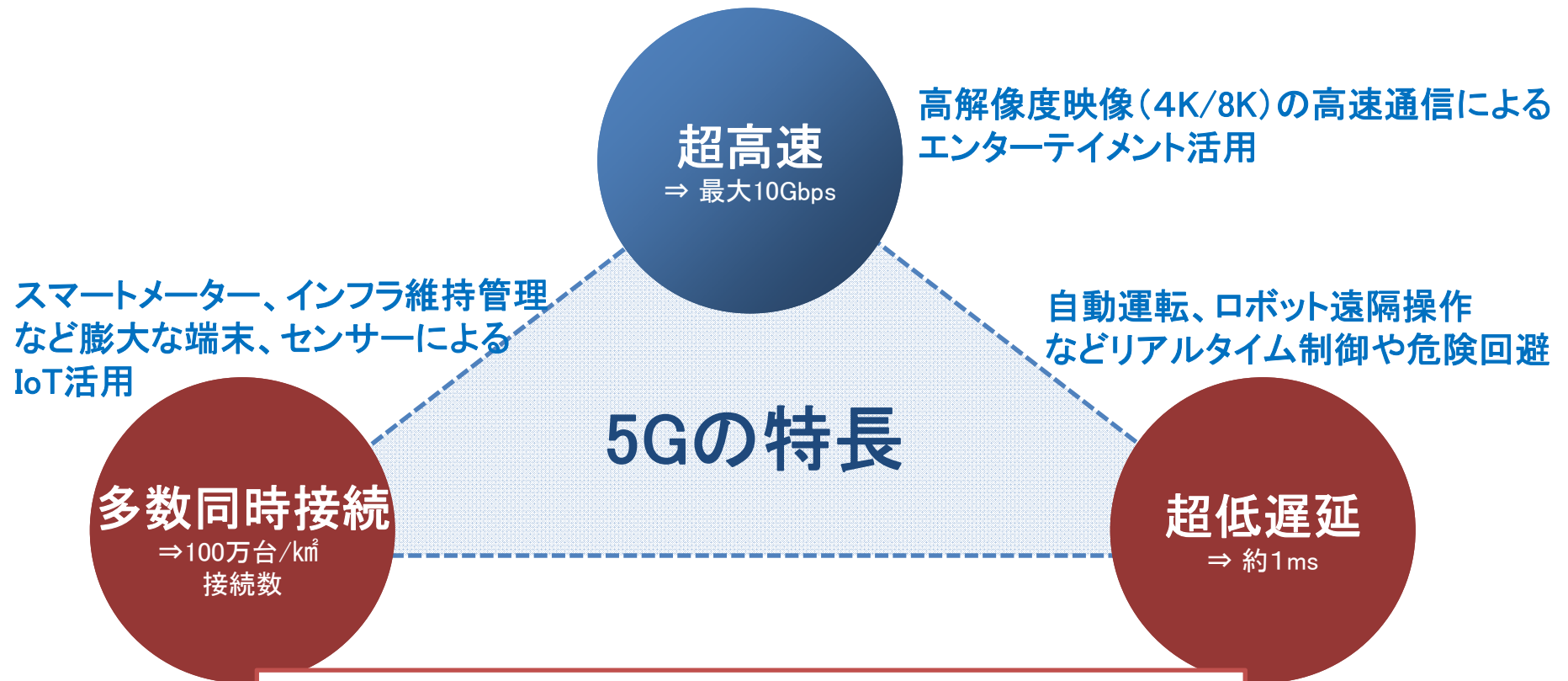
RSU: Road-Side Unit (路側無線装置)

5Gの特長

将来に向けて

5G

- 次世代5Gネットワークの特徴は大きく3つ、「超高速」×「超低遅延」×「多数同時接続」
- 4Gのスマートフォンを中心としたビジネスから、IoTの基盤を実現するキーテクノロジーとして新しい分野の市場を創出していく可能性が期待されている



OKIにとっての事業チャンス

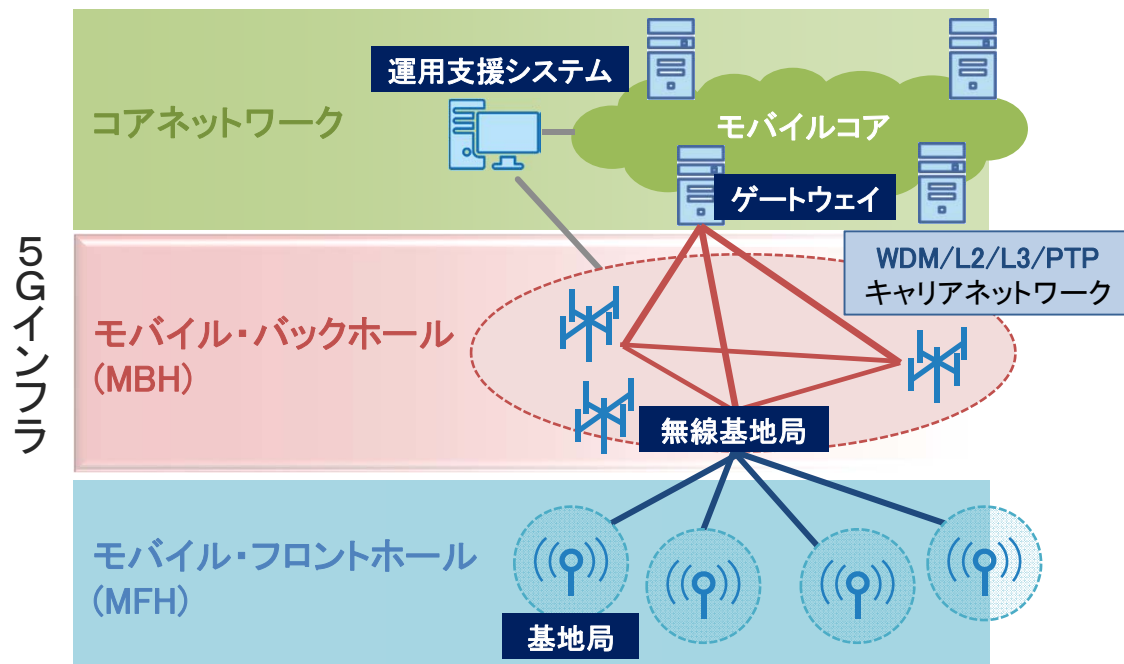
- ・5Gインフラ（キャリアのネットワーク整備）
- ・ユースケース（エッジネットワーク、アプリケーション）

5Gネットワークにおける事業展開

将来に向けて

5G

- 5Gインフラ モバイル・バックホールを中心にグローバル連携での事業展開に注力
- ユースケース 137年の顧客基盤、インストールベースを活かし、エッジネットワークや5Gを応用したアプリケーション事業を拡大 ex インフラ協調ITSサービス



OKIの強み・実績

通信キャリア
ネットワーク
知識・ノウハウ

メーカー系
Sier技術力
(WDM、他)

エッジ
ネットワーク
に強い

国内外
マルチベンダー
SI実績

ネットワーク
構築～保守まで
フルターンキー
サポート

繋ぐ

ユースケース



海洋・音響(1)

将来に向けて

海洋・音響

OKIのコア技術である海洋・音響技術を活用し、海洋・音響分野の新たな事業を創出

- ◆コア商品の展開をステップに市場に参入(STEP1)
- ◆海洋資源開発、沿岸監視、施設監視などのソリューションを順次拡充し、海洋データを収集(STEP2)
- ◆海洋データインフラを活用し、より価値の高い新ソリューションを創出・提供(STEP3)

STEP1(2018年)

コア商品による新分野展開

STEP2(2020年)

海洋データ収集に向け
ソリューションを拡充

STEP3(2022年)

海洋データインフラ整備
海洋データベース活用で
新ソリューションの実現

既存商品・技術の活用
海洋事業機会創出

ディフェンス事業
(コア技術)

水中音響技術

製品評価設備

実装技術(高耐環境性)

施工・設置

既存商品

音響 測位通信	光ファイバー センサー	超音波 センサー
加速度 センサー	画像 センサー	音響 センサー

- ◇流向、流速 ◇船体構造監視
- ◇水中移動物体探知
- ◇海況把握

海運・造船



海洋資源



海洋自衛・
警備/防犯



海洋土木/
構造物・防災



海洋データベース事業

MDA* 能力強化
スマート漁業

海洋監視

海上安全

環境保全

研究開発

魚群分布

漁獲量予測

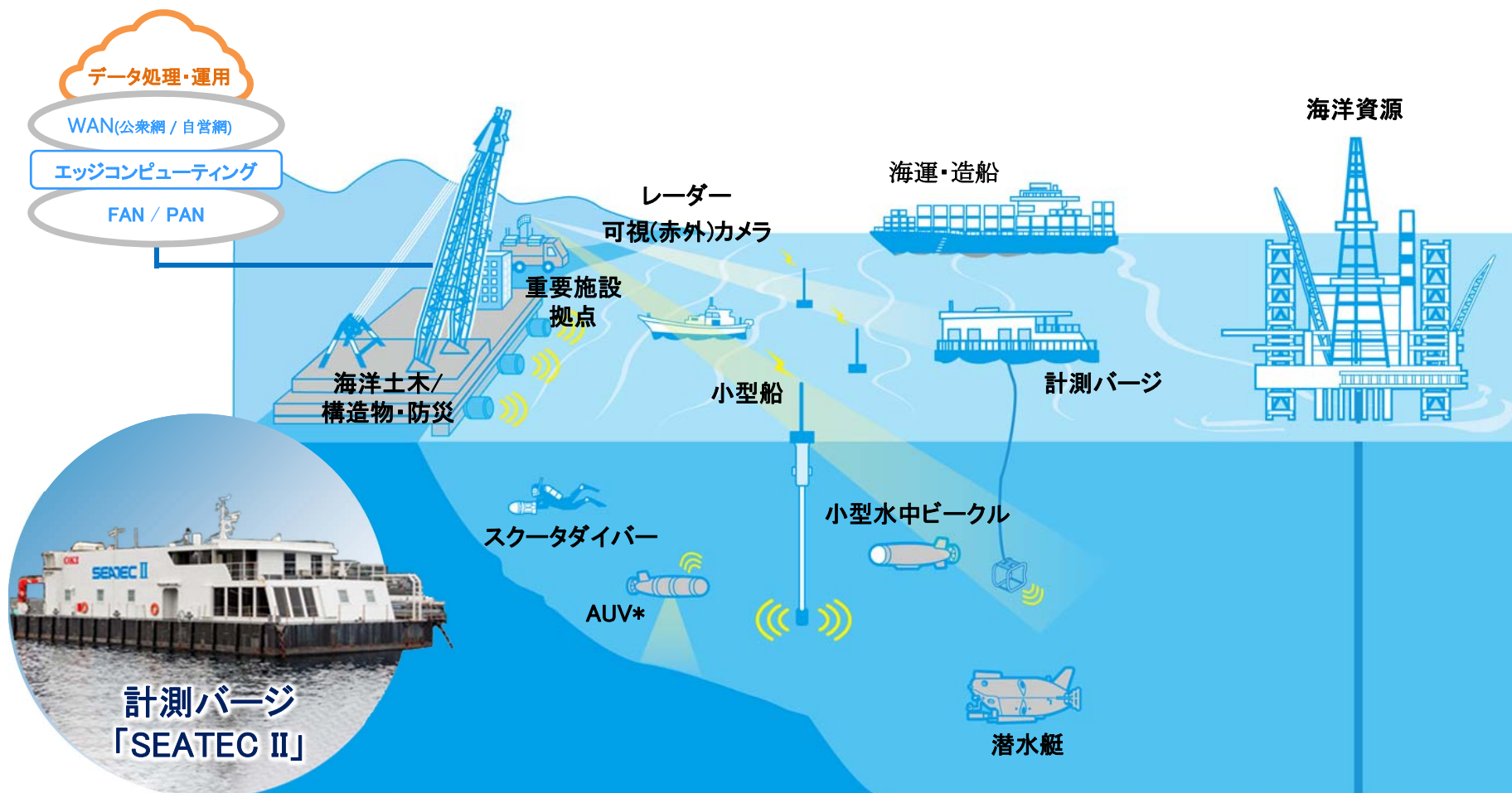
※MDA: 海洋状況把握 Maritime Domain Awareness

海洋・音響(2)

将来に向けて

海洋・音響

- 水中音響センシング技術を活かした海域侵入監視／海洋観測の効率化
- 民間企業として国内唯一の海上実験施設「SEATEC II」を完備し、陸上実験室感覚で、安定した水中環境試験が可能



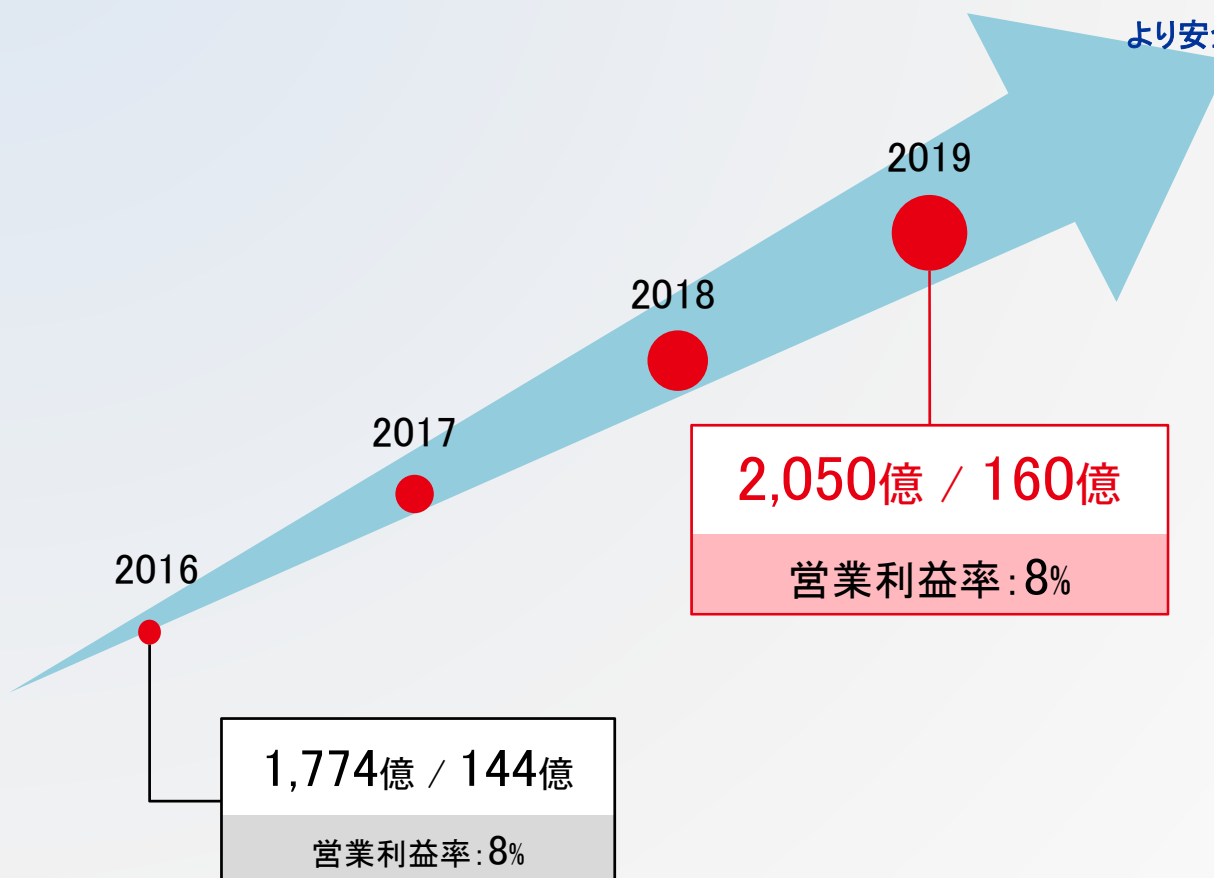
※AUV:Autonomous Underwater Vehicle

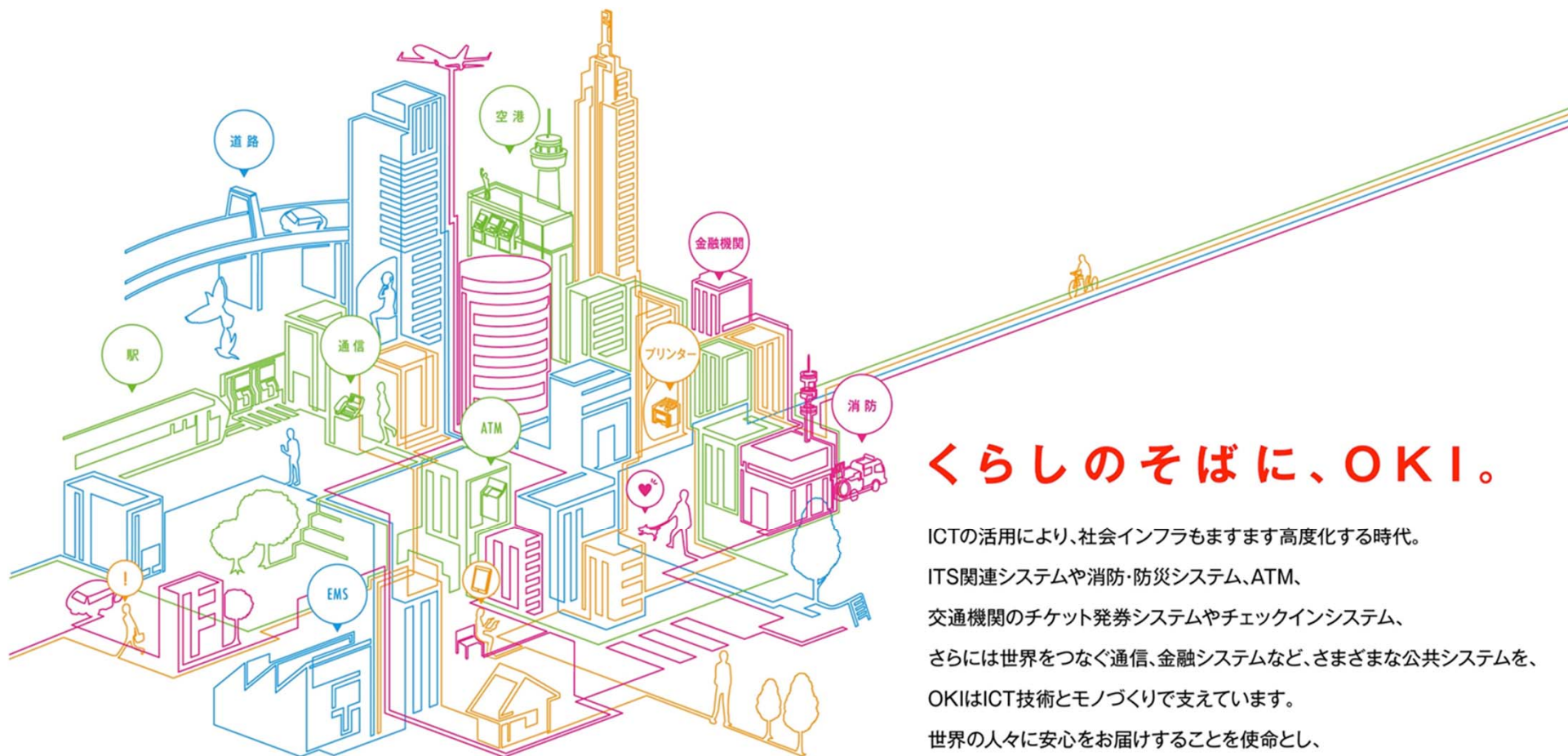
OKIグループの大黒柱として安定収益と持続的成長を実現

- ・ “IoTのOKI”として、社会インフラを支え、持続的に成長
- ・ 組織能力が向上により、高い競争力と収益力を持続

OKIの目指す姿(ビジョン)

“モノづくり・コトづくり”を通して
より安全で便利な社会のインフラを支える企業グループ





くらしのそばに、OKI。

ICTの活用により、社会インフラもますます高度化する時代。

ITS関連システムや消防・防災システム、ATM、

交通機関のチケット発券システムやチェックインシステム、

さらには世界をつなぐ通信、金融システムなど、さまざまな公共システムを、

OKIはICT技術とモノづくりで支えています。

世界の人々に安心をお届けすることを使命とし、

これからもより豊かなくらしの実現に貢献していきます。